

みんなの ひろば

交通ルールを守って安全運転を

明地峠で交通安全県境テント村を開設

秋の全国交通安全運動の初日の9月21日、交通安全の意識を高めようと、交通安全県境テント村が、明地峠展望所に開設され、通行車両に安全運転を呼びかけました。

この日は、鳥取・岡山県の関係者70人が参加。秋の行楽に出かけるドライバーに手作



1台1台通行車両に呼びかける

りのマスコットやチラシなどを配りました。

参加者は「夕暮れ時には早めにライト点灯を」「交通ルールを守って安全運転を」などと呼びかけていました。

テント村は、県交通安全黒坂地区協会と新見交通安全協会千屋支部が、交通安全を願って春と秋に鳥取側と岡山側（千屋温泉入口）で交互に開設しています。

また、9月22日には、町交通安全対策協議会の会員らが根雨地区のショッピングセンターの駐車場で街頭広報を行い、買い物客に「夜間の外出には反射材などを着用しましょう」と夕暮れ時の事故の危険性を訴えました。

消火器で

すばやく消火

根雨4区が消火訓練

地域の防災力を高めようと、9月21日、根雨4区自治会（柴田貞義自治会長）が、山陰合同銀行横の空き地で、消火訓練を行いました。

地区の住民約20人が参加し、実際に消火器を使って火を消す訓練をしました。

参加者は「使い方を知っているようで知らなかった。実際に使ってみて、勉強になりました」と話していました。

柴田自治会長は「今後も防災に対する意識を高めたい。みんなが集まり地域のきずなも深まりました」と消火訓練の成果を話していました。



実際の消火活動で使用方法を習得

町産のソバを味わって

かじか荘で手打ちソバを体験



「しっかりこねて」かじか荘の利用者も手打ちソバ作りに挑戦

企画しました。

利用者は、ソバの打ち方や特徴などの説明を受けながら会のメンバーらといっしょにソバを打ちました。

ソバ粉をこねるところから体験した松本政子さん（根雨）は「久しぶりに作り、昔を思い出しました。家でも作ってみたいです」と話していました。

この日作られたソバは、昼食に「ざるソバ」にして振る舞われ、利用者は「コシがあつてとてもおいしい」と味わっていました。

生田俊一代表は「喜んでいただきたい。ソバを味わってもらう機会を増やしていきたい」と話していました。

高齢者に町産のソバを味わってもらおうと、9月22日、日野産そばを食べてもらおう会（生田俊一代表）が、かじか荘の利用者にソバを振る舞いました。

この会は、町内飲食店主と地元の有志が集まり同好会を結成。今回は地元産のソバをお年寄りに食べてもらおうと

9月8日には、おしどり荘でもソバが振る舞われました。